

[プレスリリース]

スタンダードチャータード銀行、 富裕層向け「プライオリティバンキング」

7月5日、丸の内支店オープンと同時にサービス開始

[2005年7月4日、東京] 英金融大手スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、東京支店:東京都千代田区、東京支店CEO:マーク・デヴァダソン)は、7月5日(火)に富裕層向けリテール業務を行う第1号支店である丸の内支店(支店長:山内智浩)をオープンするとともに、富裕層向け資産運用サービス「プライオリティバンキング」を開始いたします。

プライオリティバンキングは、お預かり資産残高が 2,000 万円相当額以上のお客様を対象に、五つ星ホテルのコンシェルジュサービスを手本とした専任担当制のもと、お客様一人おひとりの資産形成をきめ細かくサポートさせていただくサービスです。

スタンダードチャータード銀行のリサーチによると、日本国内で預金額 2,000 万円を超える家庭は、全体の約 27%、総個人預金の 60%以上を占めています。しかし、従来、日本でもっとも多数を占めるこうした顧客層に対して、適切なサービスが提供されてこなかったのが実情です。そこで、スタンダードチャータード銀行では海外での富裕層サービスで培った経験とノウハウをもとに、独自にプライベートバンキングとコンシューマーバンキングのメリットを融合したプライオリティバンキングを提供するに至りました。

プライオリティバンキングで提供する主な金融商品としては、外貨預金と投資信託があります。このうち、外貨預金については、以下に挙げた2大メリットをはじめ、これまで日本国内のサービスにはなかった、画期的な商品内容となっております。

■スタンダードチャータード銀行の外貨預金2大メリット

メリット1 日本で最高水準の金利を提供(外貨普通預金)

例:米ドル建て普通預金の店頭金利は、年 1.75%(税引後 1.40%)

メリット2 日本で唯一、常時為替手数料ゼロを実現

香港、シンガポールなど、スタンダードチャータード銀行がサービスを提供する他市場では、この種の外貨預金サービスレベルは広く受け入れられており、富裕層の資産運用手段として成功を収めています。スタンダードチャータード銀行は、日本にも同様なサービス水準を取り入れたいと考えています。

スタンダードチャータード銀行がこのような画期的な外貨預金を提供できるのには、いくつかの理由があります。

理由① 日本のお客様に最大限の利益を還元するという戦略

日本のお客様は世界最大級の個人資産を保有するにもかかわらず、世界水準と比較して Underserviced—十分なサービスを受けていない—と考えました。これを変えていくこと、それが私たちの戦略です。

理由② 自社のシステムによるコスト削減

スタンダードチャータード銀行の高度な IT 技術により、最先端の銀行システム (eBBS) を導入いたしました。これにより、日本のリテール・バンキング・システムへの投資額をきわめて低額に留め、完成させることができました。これをお客様に還元します。

理由③ 特化したサービスによるコスト削減

決済機能への投資は最小限に抑え、思い切って「資産運用サービス」に特化した戦略をとりました。これをお客様に還元します。

理由④ 明確なターゲット設定によるコスト削減

特化したサービスですから、ターゲット市場も明確に絞込みました。このため、マーケティングコストおよびインフラコストを極力抑制することができました。これをお客様に還元します。

理由⑤ 常識をくつがえすことで生まれた自信

日本の外貨資産取引の手数料と金利の常識を覆すことにより、低マージンであっても多くのお客様にご利用いただくことで市場シェアを獲得できると見込んでいます。

スタンダードチャータード銀行東京支店CEOのマーク・デヴァダソンは、次のように語っています。「日本では、プライベートバンキングの概念こそ広く知られていますが、その対象には含まれない富裕層の方々も、実は数多くいらっしゃいます。そのためスタンダードチャータード銀行では、通常のリテール業務では得られない洗練された新型資産運用サービスを、日本の富裕層の皆様にご提供する絶好の機会であると考えています。スタンダードチャータード銀行は、世界の他国での成功例を日本向けにローカライズしたプライオリティバンキング・サービスを提供することで、対象顧客層にご好評いただけると確信しております。」

また、スタンダードチャータード銀行コンシューマーバンキング在日代表の青沼丈二は、次のように語っています。

「スタンダードチャータード銀行は、大手のシステム専門会社と十分に競い合える、銀行業務処理のトータルシステムを自社で開発・所有しております。「eBBS」と呼ばれるこのシステムは、約5年前にインド・中近東で開発され、現在では10カ国以上で利用されている国際的な勘定・決済・情報系システムです。この自社システムを利用することにより、日本におけるコンシューマーバンキング業務進出の際のコストを抑えることができました。この結果、「為替手数料無料」という画期的なサービスをお届けすることができるようになりました。

「無謀なチャレンジ」ではなく、スタンダードチャータード銀行のインドのチェンナイにあるIT拠点の高い技術力に裏付けられた周到的な戦略であり、ゆるぎないサービスの一環と言えるでしょう。これは日本のコンシューマーバンキングへ向けた革命であることを、皆さまへのサービスを通して伝えたいと思います。」

今回、東京駅に程近い丸の内エリアに第1号支店を開設することで、関西、東北、中部の各地域に在住するお客様へのサービスの提供も可能になると見込まれます。今後1、2年を目処に、同様のビジネスモデルを採用した新支店を3店舗から5店舗開設する予定です。

当行についてのお問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行
広報部
パトリア・ベダー ジョンストン(日本語で対応可能です)
Tel: 03-5511-1361
Fax: 03-5511-9330
E-mail: patricia.bader_johnston@jp.standardchartered.com

プライオリティバンキング、商品についてのお問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行
コンシューマーバンキング
洲崎 由美子
Tel: 03-5511-1292
Fax: 03-5511-9340
E-mail: Yumiko.Suzaki@jp.standardchartered.com

世界におけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、アジア・太平洋地域、南アジア、中近東、アフリカ、英国、南北アメリカの 50 カ国以上で 950 の拠点を有する、世界でもっとも国際的な銀行の一つです。3 万 8000 人の従業員を擁しており、その国籍は 80 にのぼります。

スタンダードチャータード銀行は、リテール(小口金融)およびホールセール(大口金融)業務の両面でサービスを提供しています。リテール銀行業務では、個人顧客および中小企業に向けてクレジットカード、個人ローン、住宅ローン、預金預かり、資産運用のサービスを展開しています。また、ホールセール業務では、企業および団体に対する、貿易金融、金庫管理、貸し付け、証券サービス、為替手当て、債権資本市場、コーポレートファイナンスを手がけています。

スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースで FTSE100 構成銘柄の上位 25 社の一つに数えられています。

世界におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての出張所を開設した1880年にさかのぼり、今年の11月1日には開設125周年を迎えます。東京支店は山王パークタワー(千代田区)にあり、現在160人を擁しています。うち日本人社員は94%にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供しながら成長を続けています。

スタンダードチャータード銀行は過去1年間、Permatta Bank(インドネシア)、韓国第一銀行(韓国)、ANZのアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit(香港)等の一連の買収戦略と、自身の自律成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。また、中国では150年にわたり事業発展を進めてきました。事業拠点を香港におき、珠江デルタでの成長を続ける一方で、その勢力をさらに北に拡張すべく、中国のネットワーク(現在7支店)を通じて地銀現地の銀行との提携の機会も探求しています。

スタンダードチャータード銀行は、視力回復およびHIV/AIDS教育の分野で地域組織を支援するCSRプログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): www.standardchartered.com/jp/index.html



**スタンダードチャータード銀行は“Seeing is Believing”プログラムを推進しており、
2年間で100万人の視力回復の実現を目指しています**